

杉戸町今昔拾遺録

温古知新
杉戸の歴史を
こぼれ話
第17回

すまいの原型その2 アリトル パースペクティブ

今回は、原始時代のすまいの代表格でもある「竪穴住居」の外観について論をすすめていきます。

竪穴住居と聞くと、私たちは素朴で原始的な暮らしを想起しがちです。しかし、その建築プロセスを認知科学の視点からよみると、そこには驚くほど高度な人間の知的活動が結晶化している様子が浮かび上がります。

日本列島で竪穴住居が出現した縄文時代草創期、縄文人はその完成形について、まだ明確なイメージを持っていなかったと考えられます。認知心理学という「メンタルモデル」が、集団内で曖昧だったのです。建築は試行錯誤の連続であり、効率的な協業体制も未発達でした。しかし、縄文時代早期には、気候環境の安定化もあってか、住居の構造や建築手順に関する知識体系、すなわち「竪穴住居建築スキーマ」が確立されます。このスキーマが集団で共有されたことで、竪穴住居は安定して生産されるようになり、平安時代に至るまで人々の生活基盤として改良され続けました。これは、個々にたゆたう経験知が集合知へ昇華する過程で文化として社会に定着し、世代間で伝承されるプロセスそのものなのでしょう。

竪穴住居の建築は、現代のプロジェクトマネジメントに匹敵する知的生産活動です。約15、20mもの土を掘削し、石器のみで木材を調達・加工し、構造を組み上げる。この一連の作業は、目標設定、計画立案、役割分担、そして協調といった高度な実行機能が集団レベルで発揮されなければ不可能です。個人の能力や知識だけでなく、道具の特性や仲間との連携を含めた全体で課題解決を図る「分散認知」システムが、ここでは機能していたはずなのです。

つまり、竪穴住居は単なる物理的なシェルターではありません。それは、縄文人の頭の中にあつた設計図（メンタルモデル）と、建築ノウハウ（スキーマ）という無形の知識を具現した「認知の外部化」の産物といえます。高度に組織化された集団による計画的なプロジェクトの成果であり、ムラ全体の景観を構成する重要な要素だったと言えるでしょう。

現在を生きる私たちは、ありし日の竪穴住居のたたずまいから、そこに生きた人々の優れた知性と社会性を見出すことができるのです。

（社会教育課 町史・文化財担当編）



わが家のアイドル



掲載された方には**特製カード**をプレゼント！
皆さんのステキな1枚をお待ちしています！

詳しくは
こちら▶



こちらから
簡単応募！▶



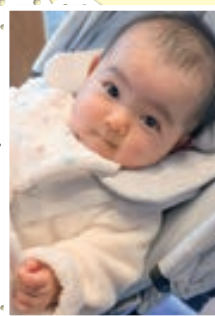
P27にも「わが家のアイドル」があります！

うちだ あゆむ
内田 歩志
ちゃん
令和5年6月6日生



むーちゃんと
等身大
しんちゃん！

うつみ れい
内海 怜
ちゃん
令和6年11月8日生



お出かけ
大好き！

さな だ りゅうじ
真田 隆至
ちゃん
令和5年1月5日生
さな だ けいじ
真田 恵史
ちゃん
平成31年1月4日生



杉戸町で
生まれ育った
仲良しな2人。
元気に大きく
成長してね。

なが ぼり おう
長堀 王雅
ちゃん
令和5年6月10日生



健康第一！
大きく育ってね。

よし だ こうせい
吉田 光惺
ちゃん
令和4年1月24日生



いつも
ニコニコ笑顔の
こうちゃん！
たくさん笑って
大きくなつてね。

わ だ えみ
和田 笑実
ちゃん
令和4年10月18日生



ブランコ、
楽しい！



UD FONT
by MORISAWA

読みやすい書体であるユニバーサルデザイン
(UDフォント)を使用しています。



杉戸町
ホームページ



メール配信
「すぎめー」



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE



杉戸町
公式X